

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-108034

(43) 公開日 平成9年(1997)4月28日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 D 29/00			A 4 5 D 29/00	
34/04	5 4 0		34/04	5 4 0
A 6 1 K 7/043			A 6 1 K 7/043	

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-294943

(22) 出願日 平成7年(1995)10月19日

(71) 出願人 000002314

セーラー万年筆株式会社
東京都台東区上野1丁目15番4号

(71) 出願人 593077906

株式会社タカシマ製作所
東京都台東区駒形1-5-13 管公ビル

(72) 発明者 岡本 英士

東京都台東区上野1丁目15番4号 セーラ
ー万年筆株式会社内

(72) 発明者 高島 吉郎

東京都台東区駒形1丁目5番13号 株式会
社タカシマ製作所内

(74) 代理人 弁理士 田原 寅之助

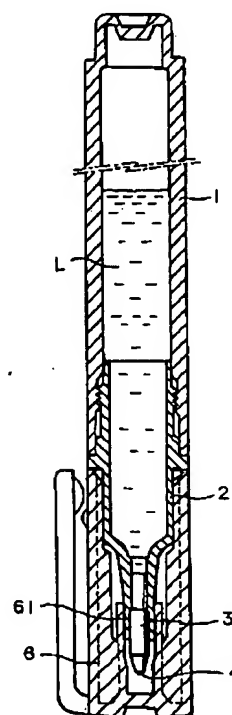
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 化粧具

(57) 【要約】

【課題】除光液用の容器が不要であって携帯に便利であり、かつマニキュア液が順次供給されて塗布操作が簡単であり、しかも爪の健康上好ましいマニキュア用の化粧具を提供する。

【解決手段】爪表面に形成されたマニキュア皮膜が水で洗い落とせるマニキュア液しを塗布液容器1に充填し、球状塗布体4をその一部が先端から臨出した状態で回転自由に抱持したチップ3を塗布液容器1の先端開口に固着し、球状塗布体をスプリングで弾発して非使用時はチップの内向きの先端縁に接触させる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 爪表面に形成されたマニキュア皮膜が水で洗い落とせるマニキュア液が塗布液容器に充填され、球状塗布体をその一部が先端から臨出した状態で回転自由に抱持したチップが塗布液容器に固着され、該球状塗布体がスプリングで弾発されて非使用時はチップの内向きの先端縁に接触していることを特徴とする化粧具。

【請求項2】 前記マニキュア液の樹脂成分が酢酸ビニル・ビニルピロリドン共重合体であることを特徴とする請求項1記載の化粧具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、マニキュア用の化粧具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】マニキュア用の化粧具は、通常は、塗布ブラシとマニキュア液が充填された塗布液容器からなり、塗布ブラシを塗布液容器内に入れてマニキュア液を含ませ、この塗布ブラシで爪などに塗布してマニキュア皮膜を形成する。ここで、マニキュア液は、必須成分としての皮膜形成用樹脂、着色剤、溶剤からなり、必要に応じて防腐剤や改質材などの補助成分が添加されるが、皮膜形成用樹脂としては、従来よりアルキド樹脂、ポリエテスル樹脂、スルホンアミド樹脂、ニトロセルロースなどの合成樹脂が使用されている。

【0003】そして、マニキュア皮膜を除去するとき、除光液が充填された塗布液容器に除光液専用の塗布ブラシを入れて除光液を含ませ、この塗布ブラシで除去するが、樹脂成分として前記の合成樹脂を使用したマニキュア液で形成された皮膜を爪から落とす除光液としては、ケトン類、エステル類などの有機溶剤が使用されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このようにマニキュア用の化粧具は、マニキュア液ないし除光液が充填された2個の塗布液容器とそれぞれ専用の塗布ブラシからなるので、携帯に不便であった。また、不使用時にも保管用の広いスペースを必要とする。そして、塗布ブラシのマニキュア液含み量は、1回の使用量（10本の爪に塗布するのに必要な量）よりも少ないので、何度も塗布ブラシを塗布液容器内に入れてマニキュア液を含ませる必要があり、操作が煩雑である。また、除光液を使用する場合も事情は同じである。

【0005】このため、ペイントマーカーのように、塗布液容器の先端に塗布ブラシを取り付けて塗布液容器内のマニキュア液や除光液が塗布ブラシに順次供給されるようにすると便利である。しかし、マニキュア液は、ペイントマーカー用のインキなどに比べて粘度が高くて固まりやすいので、塗布完了後にも多量のマニキュア液が塗布ブラシに残留していると、塗布ブラシが固まってし

まう不都合があり、ほとんど実用化されていないのが実情である。

【0006】また、ケトン類、エステル類などの有機溶剤からなる除光液を使用すると、マニキュア皮膜と同時に爪の水分や脂肪分も取り除いてしまうので、爪の表面はざらざらとして光沢のない状態になり、長期間使用した場合などにおいては、爪が脆くなり、爪の健康上好ましくない不具合がある。

【0007】そこで本発明は、除光液用の容器が不要であって携帯に便利であり、かつマニキュア液が順次供給されて塗布操作が簡単であり、しかも爪の健康上好ましいマニキュア用の化粧具を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】かかる目的を達成するために、本発明の化粧具は、爪表面に形成されたマニキュア皮膜が水で洗い落とせるマニキュア液を塗布液容器に充填し、球状塗布体をその一部が先端から臨出した状態で回転自由に抱持したチップを塗布液容器に固着し、球状塗布体をスプリングで弾発して非使用時はチップの内向きの先端縁に接触させる。

【0009】

【作用】すなわち、本発明の化粧具は、ボールペンタイプであり、かつマニキュア皮膜が水で洗い落とせるマニキュア液を充填しているので除光液用の容器が不要であるので、携帯に便利であり、しかも爪の健康上好ましいが、マニキュア液が球状塗布体に順次供給されるので、塗布操作が簡単であり、球状塗布体がスプリングで弾発されて非使用時はチップの内向きの先端縁に接触しているので、球状塗布体とチップの内向きの先端縁で弁機構を構成し、非使用時にマニキュア液が固まることがない。

【0010】

【実施例】以下に図面に示す実施例に基づいて本発明を具体的に説明する。図1において、合成樹脂で筒状体に射出成形された塗布液容器1の先端開口に先口2が液密に螺着されている。そして、先口2の中心孔にチップ3が嵌着されている。また、塗布液容器1およびチップ2内部には、後に説明するマニキュア液が充填されている。

【0011】チップ3は、ステンレスにて砲弾型に形成されており、図2に示すように、チップ3先端のボールハウスに、例えば直径が1.0mmφの球状塗布体4がその一部がチップ3の先端から臨出した状態で回転自由に抱持されている。つまり、本発明の化粧具はボールペンタイプになっており、携帯にきわめて便利になっている。

【0012】チップ3内には、バネ力の小さなスプリング5が配置されており、このスプリング5が球状塗布体4を弾発してチップ3の内向きの先端縁31に圧接させ、球状塗布体4とチップ3の先端縁31で弁機構を構

成している。つまり、不使用時に、マニキュア液しがチップ3の先端から流出せず、またこの弁機構によってシールされるので球状塗布体4の裏側に付着したマニキュア液しが固まらず、次回の使用時に球状塗布体4が回転して塗布できるようになっている。

【0013】不使用時は、キャップ6が先口2に嵌着されるが、キャップ6の内部には内筒61が設けられており、内筒61が先口2の先端小径部に密着してチップ3を密封している。そして、キャップ6を先口2に嵌着する過程で、内筒61内の有効空間容積が減少して内部の10 空気が加圧されるので球状塗布体4が後退し、加圧空気が塗布液容器1内に侵入する。従って、塗布液容器1内に加圧され、使用時には、加圧空気に押されてマニキュア液しがチップ3に抱持された球状塗布体4に供給され、確実にマニキュア液しを塗布できるようになっている。つまり、キャップ加圧方式が採用されている。

【0014】なお、キャップ加圧方式を採用せずに、塗布液容器1を可撓性に富んだ合成樹脂で成形し、使用時に塗布液容器1を指先で押圧して変形させ、塗布液容器1の内部を加圧するようにしてもよい。

【0015】また、内筒61内に、例えば軟弾性材料からなる球状のシール材(図示せず)を配置し、キャップ6を塗布液容器1に嵌着する過程で、シール材が球状塗布体4に当接して強制的に後退させると、効率良く塗布液容器1内を加圧するとともに、チップ3の先端を確実にシールすることができる。

【0016】本発明の化粧具に使用されるマニキュア液しは、樹脂成分が酢酸ビニル・ビニルピロリドン共重合体からなり、マニキュア皮膜を水で洗い落とせる水溶性と水が付着してもマニキュア皮膜の美しさが損なわれない30 耐水性を同時に満足するものである。そして、マニキュア皮膜として要求される爪表面への密着力、硬さ、光沢などの性能をも満足するものである。

【0017】酢酸ビニル・ビニルピロリドン共重合体は、酢酸ビニルの割合が少ないほど、水溶性が高くなり、逆に酢酸ビニルの割合が多いほど、水溶性が低くなって耐水性が高くなる傾向があるが、マニキュア皮膜を水で洗い落とせる水溶性と水が付着してもマニキュア皮膜の美しさが損なわれない耐水性を同時に満足するために、酢酸ビニルの割合が40%以上になっている。

【0018】マニキュア液を爪に塗布する際に、十分な質感が得られるようにある程度樹脂の添加量を多くするが、従来のマニキュア液においては、樹脂量を多くすると粘度が高くなり、レベリングや「のび」に悪影響を与える。しかし、樹脂成分である酢酸ビニル・ビニルピロリドン共重合体は、従来よりも樹脂量を多くしても粘度がそれほど高くない特性を有し、酢酸ビニル・ビニ

ルピロリドン共重合体の添加割合を10~35%にすることにより、塗布時に十分な質感が得られ、かつ良好なレベリングや「のび」が得られるようにしてある。

【0019】しかして、チップ3の先端を爪に当てて移動させると、球状塗布体4がチップ3の座部に当接して回転し、マニキュア液しが塗布されるが、樹脂成分に酢酸ビニル・ビニルピロリドン共重合体を使用している10 ので、樹脂成分に合成樹脂を使用した従来のマニキュア液に比べて粘度が低く、従って、マニキュア液しが球状塗布体4とチップ3の先端縁31の間に詰まることなく回転する球状塗布体4の外部への露出部分に順次供給されるので、きわめて簡単に、かつ連続的に塗布することができ、従来のように、たびたび塗布ブラシを塗布液容器に入れて塗布ブラシにマニキュア液を含ませる操作が不要である。

【0020】マニキュア皮膜を除去するときは、指先でマニキュア皮膜を擦りながら水で洗い落とすことができるので、従来のように、除光液用の容器と塗布ブラシが不要であり、ボールペン型であるのと相俟って携帯に極めて便利である。そして、ケトン類、エステル類などの有機溶剤からなる除光液を使用しないので、爪の健康上からも極めて好ましい。

【0021】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のマニキュア用の化粧具は、爪表面に形成されたマニキュア皮膜が水で洗い落とせるマニキュア液を塗布液容器に充填し、球状塗布体をその一部が先端から臨出した状態で回転自由10 に抱持したチップを塗布液容器の先端開口に固着し、球状塗布体をスプリングで弾発して非使用時はチップの内向きの先端縁に接触させるようにしたので、除光液用の容器が不要であって携帯に便利であり、かつマニキュア液が順次供給されて塗布操作が簡単であり、しかも爪の健康上も好ましいマニキュア用の化粧具とすることができる。

【図面の簡単な説明】

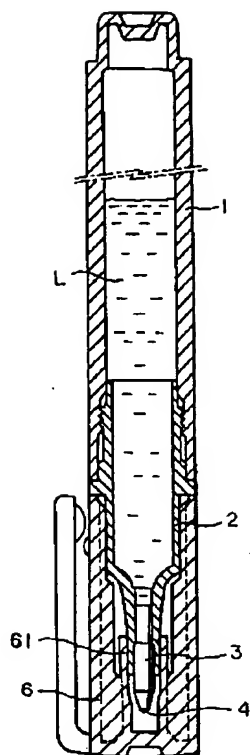
【図1】本発明実施例の断面図である。

【図2】チップの断面説明図である。

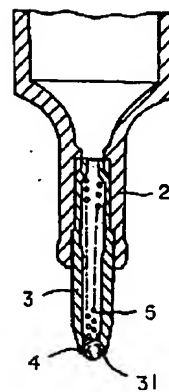
【符号の説明】

- 1 塗布液容器
- 2 先口
- 3 チップ
- 31 チップの先端縁
- 4 球状塗布体
- 5 スプリング
- 6 キャップ
- 61 キャップの内筒
- L マニキュア液

【図1】



【図2】



フロントページの続き

(72)発明者 渡邊 英華
東京都台東区上野1丁目15番4号 セーラ
一万年筆株式会社内